

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-51C	16-088	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名（原題／訳）</b>		
<p>The Race-Specific Incidence of Esophageal Squamous Cell Carcinoma in Individuals With Exposure to Tobacco and Alcohol.</p> <p>喫煙および飲酒者における食道扁平上皮癌の人種別発症率</p>		
<b>執筆者</b>		
Prabhu A, Obi K, Lieberman D, Rubenstein JH.		
<b>掲載誌</b>		
Am J Gastroenterol. 2016 Dec;111(12):1718-1725. doi: 10.1038/ajg.2016.346. Epub 2016 Aug 30.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
食道扁平上皮癌、食道腺癌、胃食道逆流症、飲酒、喫煙、人種		27575710
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b> 飲酒と喫煙習慣の有無別の食道扁平上皮癌(ESCC)の性・人種別発症率を明らかにし、胃食道逆流症(GERD)を有する白人の食道腺癌(EAC)発症率と比較した。</p> <p><b>方法：</b> 1999～2002年の米国国民健康調査より飲酒と喫煙習慣のデータを得た。ESCCの発症情報は2007～2011年の米国監視疫学遠隔成績プログラム(癌地域登録システム)より得た。飲酒と喫煙習慣の有無別、性・人種別のESCCの標準化発症率はMarkovのアルゴリズムを用いて算出した。</p> <p><b>結果：</b> ESCC発症者は非ヒスパニック白人、ヒスパニック、アジア人に比べてアフリカ系米国人が多かった。飲酒と喫煙習慣のあるアフリカ系米国人のESCC発症率(60歳で10万人年あたり30)は、週に1度のGERDを有する非ヒスパニック白人のEAC発症率(60歳で10万人年あたり40)に近づいた。一方60歳の女性では、週に1度のGERDを有する非ヒスパニック白人のEAC発症リスクは10万人年あたり6.2であった。</p> <p><b>結論：</b> 飲酒と喫煙習慣のあるアフリカ系米国人男性のESCC発症率は高かった。</p>		